

第23回山のトイレを考えるフォーラム 議事概要

1. 講演 ロバート・トムソン氏 北星学園大学文学部英文学科専任講師

「ニュージーランドの山のトイレと比較して大雪山グランドトラバースのトイレを考える」

■世界を旅してきて大雪山グランドトラバースを歩いて思ったこと

- ・旅が好きで、自転車でユーラシア大陸横断、スケートボードによる長旅でヨーロッパアメリカを横断した。
- ・世界を旅する中で、世界のトイレ事情を経験し、悪い例も見てきた。
- ・北海道はアドベンチャーフロンティアなのに、英語での情報発信がほとんどなかった。
- ・悪天候の日に大雪山の登山道の分岐点で外国人に道を尋ねられたのがきっかけで、WEBでの情報発信する団体「HokkaidoWilds.org」を立ち上げた。
- ・WEBでは、インスピレーション（北海道に来たくなるもの）、インフォメーション（ルートの情報）、エデュケーション（山小屋やトイレマナー、トイレ紙の持ち帰りなどまたその理由）を発信している。
- ・大雪山グランドトラバースをするときに、情報を集めたが、英語での情報は2015年にイギリス人は発信したブログで、それには景色最高。トイレの使用済みの紙が散乱し、うんこの踏み付けに気を付けてなどのアドバイスが載っていたが実際に歩いているとそうでもなかった。山のトイレを考える会の啓蒙活動が進んでいると感じた。
- ・個性のある山小屋が多くて気に入って。白雲小屋をスタンダードにしてほしい。
- ・「HokkaidoWilds.org」は個人旅行者を対象としている。コロナ禍においてWEBサイトの閲覧者は下がっているが、インスタの写真の「いいね」は増えている。これは北海道が好きという旅行者が多いということを示しているということ。なのでコロナ禍が収まり海外旅行が自由になったら旅行者が一気に増えると考えられるので今のうちに準備をしましょう。

■大雪山グランドトラバースのトイレについて

- ・大雪山グランドトラバースを世界レベルの縦走ルートにするならば、トイレや山小屋がネックかもしれない。
- ・大雪山グランドトラバースを歩いた同行者に携帯トイレを初めて使った人がいたがすぐ慣れたようだった。
- ・実際に歩いてみて美瑛富士の携帯トイレブースは最高だった（丈夫で使いやすいのでこれをスタンダードに）。ひとつ気になったのは、床がグレーチングであることで、おしっこをそのまましてもいいと思う人もいるのではないかという造りだと思った。
- ・うんこポーター制度は縦走者にとっては good
- ・縦走中使用済み携帯トイレを持ち歩くのは重くていやだとも思った。

- ・世界的にもうんこ持ち帰り義務化はアメリカにもあるので珍しくはない。
- ・環境省による「国立公園満喫プロジェクト」が立ち上がり、2020 年までに国立公園の訪日外国人を 1000 万人にする目標を掲げるプロジェクトをしているのに、大雪山で利用者の多い裏旭にはトイレをするところがなかった。ガイドツアーが困る時があると思う。
- ・大雪山グランドトラバースを歩いて疑問に思ったのは2つある
 - ①立派なプロモーションをしているのに商品である登山道も利用してもらいたい登山者像もチンプンカンプン。
 - ②日本一のハイキングフィールドである大雪山グランドトラバースを一銭も払わずに歩けたのはおかしい

■ニュージーランドの山のトイレについて

- ・ニュージーランドは自然保護省がすべての権限を持っていて、観光局と密に連携を取り、ニュージーランドの自然を売りにしている。
- ・WEB サイトを比べてみると、ニュージーランドは自然一色だが、日本は自然、歴史、文化と自然のライバルが多い
- ・ニュージーランドの山のトイレは自然保護省が管理していて小屋の数と同等 9 5 0 か所以上ある。
- ・自然保護省では、山に入る前にトイレをすませる。登山道から離れた場所でトイレをし、汚物を埋める。我慢して次のトイレまで行こうと PR している。
- ・携帯トイレは非常識で、汚物は埋める。埋めていい環境。
- ・ニュージーランドの山のトイレの特徴は、眺めが良い。
- ・トイレの汚物は、基本ヘリ運送だが、埋めていっぱいになったらトイレを移動するタイプのものもある。だからと言って大雪山にヘリ運送を取り入れるっていうのではなく、ヘリ使用はCO2の排出などそれなりに課題もある。
- ・ニュージーランドの登山については、小屋利用については事前にチケット購入。この利用料で管理費 62.5%を賄っている。
- ・日帰り登山者は利用料を払わなくて、宿泊の人が払う費用から賄なっている。
- ・ニュージーランドの登山者像は、本格的登山者が収益対象。そのお金でトイレを整備し、日帰り登山者は対象外。トイレのあるところに日帰り登山者は行かないという想定。
- ・10年後の大雪山トイレ事情の理想（ビックピクチャー）を考え、活動を続けてほしい。

2. 発表 山のトイレの会代表 小枝正人氏

「大雪山・裏旭や野営指定地の携帯トイレブース設置に向けたアンケートと調査報告書」

- ・裏旭野営指定地携帯トイレ検討連絡会が設置され、2021 年度に連絡会で実行可能な団体と協働して、携帯トイレ使用に対する意識調査及び裏旭での排泄状況把握調査をした。

- ・調査内容の詳細は調査報告書に載せているが、調査対象者は、裏旭野営指定地に宿泊する登山者及び通過者に行った。

大まかなアンケート結果をピックアップする。

■宿泊者

- ・山中何泊しましたかには、1泊が最多の76%
- ・登山コースは旭岳周回が最多53%
- ・携帯トイレ認知率94%、持参率94% 使用率92%
- ・裏旭野営指定地ではどの場所で携帯トイレを使用しましたか？
テント内（ソロテント泊の人）、沢型になっているところ、小さな岩陰などの回答
- ・裏旭野営指定地のトイレについて、ブース設置希望57%、トイレ設置36%、少数だが現状のままと回答もあった。

■通過者

- ・裏旭野営指定地周辺に携帯トイレブースがあったら使用するか？に対しては78%があるなら使用すると回答

■まとめ

- ・携帯トイレ認知率94%、持参率94%と高確率であった。
- ・裏旭野生指定地では隠れる場所はないが、92%が何らかの工夫をしてトイレをしていることがわかった。
- ・なかでも、やむを得ず、高山植物帯にはいつて使用していることも分かった。
- ・宿泊者93%、通過者78%が携帯トイレブース設置（トイレも含む）を望んでいる。

そういった現状も含め2022年度には大雪山連絡協議会の中に検討部会として、大雪山山岳トイレ問題検討作業部会を設置予定。

3. 総合討論（トムソンさんに質問）

山のトイレを考える会 伊吹氏

Q.大雪山縦走したとき8日間で5回ウンチをしたとのことだが、携帯トイレは何セット持ちましたか？

A.一人5セット持った。使用後はドライバックに入れてザック外付け。

メンバーの中には携帯トイレが高いからいやだという人もいてジップロック2重にして使用していた人もいる

Q.うんちポーターは利用しましたか？

A.一人がサービスを使用。1袋1,000円だった。

山のトイレを考える会 岩村氏

Q.ニュージーランドはトイレ以外埋めるとのこと、紙はどうする？埋める？

ニュージーランドは小屋料金がそれぞれ違うが、安い小屋のトイレの維持管理の仕組みは？

A.埋めるのは紙も一緒。紙を持ち帰ることも違和感がすごくある。トイレが設置されているので、持ち帰ることに違和感があるのかもしれない。埋めることはニュージーランドの生態系には影響はない。でも大雪山も埋めればという意見もあるが、埋める場所もなく埋められる環境ではないと思う

安い小屋でも自然保護省の職員が維持管理。山岳のボランティアは少ない。ボランティア制度もあるが、参加する人がお金払ってまでもボランティアすることは聞いたことがない。政府にお金を払って政府の仕事をするってことはない。働いたら賃金が支払われる。

大雪山国立公園管理事務所 入江氏

Q.海外では携帯トイレを販売していますか？

A.市販のものはある。アメリカでは長距離ラフティング、グランデキャニオンなどエクスペディション（長い行程）などでは広く使われているし、一週間もかかる岩登りでは、普通に使用している。岩の上から排泄をすることはできない。

だが、登山カテゴリーとなると珍しい。ニュージーランドでは買えるかどうかは分からないが多分買えない。

Q.携帯トイレの英訳は？

A.アメリカだと、「WAG BAG」 =W:waste（うんこ）、Allieviation（すっきりする）、And Gelling（固める）。potble toilet でもいいと思う。

外国人にどのように携帯トイレのことを受け入れやすく使ってもらえるかを伝えるかは難しい。海外でも場所によって使われているということを分かってもらうことも必要。「周りの環境がデリケートだから必要」とかそういったコミュニケーションが必要。日本、大雪山の変な習慣ではなくて、そういう環境は世界各地にあって大雪山はその一つだということ。

世界中の美しい場所の一つとして取り組んでいるというコミュニケーションが必要。

山のトイレを考える会 小枝氏

Q.大雪山での携帯トイレ使用のことは、充分ではないですが、既に環境省や北海道が登山口などのパンフレットや掲示で3ヵ国語により広報をしている。現状の方法からさらに、こうすれば効果があるという方法はありますか。

A.大雪山を海外で売るとき、PRする段階で携帯トイレ使用のことを知らしめることが必要。到着して「よし歩こう！」となってから、登山口で携帯トイレが必要と知ると「なんで？」となる。携帯トイレの使用の体験は全体でいい意味、いいことで、全パッケージが憧れのものになる。2023 アドベンチャートラベルワールドサミットに対して、日本の企業が海外に売り込む時に、携帯トイレも一つの売りとしていく。重要なのは「申し訳ないけど使って」とかではなく「世界的にみても珍しい脆弱な山岳環境だから携帯

トイレを使わなければいけない」ということを到着前に知ってもらふ広報が必要。

山のトイレを考える会 仲俣氏

Q.アドベンチャートラベルワールドサミットでは携帯トイレの理解が重要になると思う。

A.携帯トイレの第一印象は嫌がると思う。使ったことがない人には考えられない行為なので、受け入れられるのが難しい。本格的な登山者ならまだあり得るが一般的には難しい。「はじめは嫌だったけど、使ってみたら意外とできるよ」というのをどう広げるか？どうコミュニケーションするか？

Q.避難小屋とトイレの印象はどうでしたか？

A.ピット式である分、光が入るので下見たら中が丸見えで恐ろしかった。ニュージーランドでは見ないこと。忠別岳のトイレとかゴミが入っていた。白雲岳小屋のトイレは、風向きによってランチ中に臭った。小屋に意外と近い。ニュージーランドは小屋から離れている。

上川総合振興局 福井氏

Q.日帰り登山者からお金（利用料）とらないと言っていたが、トイレ利用の割合は？日帰りの利用者はどのくらいいますか？

A.わからない。印象的なのは日帰りで到着できる小屋はそう多くない。8時間歩く日帰りはない。

山のトイレを考える会 伊吹氏

Q.大雪山ではおしっこも持ち帰りだがどうしましたか？

A.おしっこは持ち帰らなかった。おしっこに関する願いは念頭になかった。うんこは絶対そうだねと認識はしていたが、おしっこはその意識はなかった。おしっこを持ち歩くのは何リットルになるのかなって思う。

Q.裏旭のアンケート調査では、おしっこを持ち帰ったが、行きより重くなって、おしっこの持ち帰りは嫌になる人がいた。

A.大雪山でおしっこの持ち帰りが必要なことであれば、その対策、必要性のコミュニケーションは必要。

大雪山国立公園管理事務所 広野氏

Q.大雪山グレードを歩いた感想に、その行程中にお金を払わなかったのはおかしいとありました。今年度は一部、白雲小屋で協力金を徴収していて、これから利用料をとることを考えているが、整備や良くするところは、小屋とトイレ以外にありますか？

行政としてできる重要なところから調査や見直しをしていきたい。

A.標識や木道（登山者の安全、環境に悪い木道）の改善が必要と思う。

環境が厳しいからもたないと聞くがそれは言い訳。よくそのことを指摘すると、整備したのが20年前とか聞いて驚く。

ニュージーランドでは登山道の寿命が書いてあって管理されている。収入源があるから維持管理できている。宿泊者から徴収すればいろいろ維持管理ができる。気になった

のは、統一したブランディング（標識の色や形）。イメージづくりに寄与し重要。
ニュージーランドは自然保護省がオーナーなので統一したものになっている。それを見ると質の保証として安心する。ちゃんとした組織が見守ってくれているイメージづくり。小屋内の注意書きにしても統一すると気持ちがいい。

山のトイレを考える会 小枝氏

Q.環境省や北海道では標識統一したものに整備し始めている。近年の動きは整備が良い方向になっている。環境省や協議会の努力を感じる。広野さん、大雪山の協力金のことについて現状を話していただけますか？

大雪山国立公園管理事務所 広野氏

A.白雲避難小屋での協力金は、対象範囲を白雲岳避難小屋周辺の登山道整備に使う試行実施的段階。大雪山全体にどのように広げていくか課題。

協議会の協力金作業部会は一定の役割を終えたと思っているので、来年度からは登山道整備と切り離せないので登山道維持管理部会にて協力金の検討をしていく。協力金を使って登山道、避難小屋、野営指定地の改善を目指すことができるよう具体的な議論を進めていく。

山のトイレを考える会 手嶋氏

Q.携帯トイレの使用については携帯トイレを使う側の問題もある。一緒に登る登山者への声かけはどうしたらいいか。効果的なアイデアを知りたい。

A.効果的な啓蒙活動。NPO かむいや山守隊の活動は素晴らしいボランティア活動をしているなと思っている。ボランティアの熱意パッションを感じるが、お金を払ってまでボランティア参加しているので、もっと大きな革命が必要と思う。今は登山が観光の一部になっている。観光分野から資金をもらって、ボランティアも賃金をもらう体制を作って、登山道の保全に大きなビジョンを持ってやること、意識の向上、外国人に対する携帯トイレを使う意義、必要性。目の前にある問題は重要であるが、同時に10年先のことを理想的な状況（ビクピクチャー）を考え踏み出すことだと思うので、楽しみに見守っている。

（記録：田中智子）